

2018年 第59回BCS賞

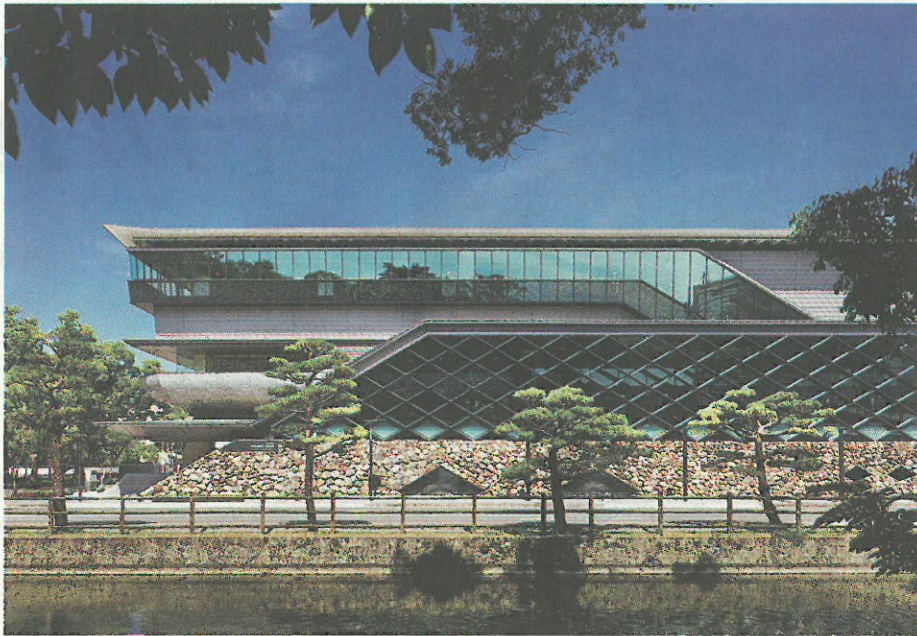
高知県立高知城歴史博物館

山と海に囲まれて独自の文化を育み、多くの歴史上の人物を輩出した高知。その群像の一人、土佐藩主山内家の家臣の資料の高知県への移管を契機に、古美術・古文書の収蔵展示に止まらない今日の課題が議論され、挑戦的企画に未来を託してこの博物館は誕生した。

高知城を頂点とする土佐文化の歴史建築群への畏敬の念の在り方に始まり、浦戸湾に近い海抜2層のこの場所の数々の天災の記憶や夏の日差し、豪雨など厳しい気候風土への対応に至るまで、この建物の課題

のキーワードは「継承性と持続性」ということになる。

随所に見られる土佐由来の菱模様の中でも、正面のカーテンウォールは、迫り上がる深い奥行きを思わせる。背後に控えるPCa大な波紋を思わせる。背後に控えるPCaコンクリート洗い出しの板扉のような素材感の舟形バルコニーと共に、土佐の荒波に浮かぶ宝船のコラーージュとして、抽象・具象入り混じるパビリオンのような景観によって、起死回生の新風を城下町に創り出すことが第一の挑戦である。



①高知市追手筋2-7-5 ②高知県
③日本設計、若竹まちづくり研究所
④清水建設、轟組、入交建設、富士古河E&C、昭栄設備工業、丹青社、日本エレベーター、東京機工、不二
⑤SRC・RC・PCa PC・S造(免震構造)
⑥2016年4月15日

1階柱頭に中間層免震を採用し、2階以上で収蔵展示・電気・動力源を配して津波・水害・地震に備える一方で、外部を貫く免震EX Pジョイントカバの陰影が多種多様な意匠の積層を際立たせている。3階展示室は、リブ付きPCaコンクリート床版を場所打ちコンクリートで奇棟屋根に一体化し、鋼製屋根を重ねて二重防水としたものを軒先の2段リブで飛燕垂木に表現するなど、内部を構築する強い思いをその外觀の造形に具現化することが第二の挑戦である。

収蔵庫を二重構造にして四周から空気で絶縁し、調湿・断熱・省エネ性能など過酷な環境に耐える万全の収蔵空間としている。その外周の隙間スペースを展望ロビーや茶室に作りこみ、土佐職人の和紙・漆喰・檜などで華麗に仕上げた伝統技芸の常設展示を兼ね、博物館のロビーにありがちな無機質の閉鎖性とは対照的に、その目眩めく豊潤さを歴史文化への探求心に誘うことが第三の挑戦である。

魅力の発信と内面の充実、という挑戦において、外部と内部全体と部分の往還は、この作品の難易度を象徴的に示すものであり、これを支える設計者の発想の熟度と施工者の工法の精度は見事である。加えて、余裕のない施設構成ながら、よき祭りのや海外の観光客の休息所をヒロティに設け、そこから高知城を正面に仰ぎ見る光景を街起こしの起点にするという、博物館の枠を超えて都市に開く発想には、一種の危機感をバネにした建築主、設計者、施工者共通の熱い思いが見て取れる。幾多の困難はこの三者の三位一体の取り組みによって克服され、「安全安心の博物館」との評価は他施設からの展示物の融通など施設経営にも成果を上げるに至っている。

近未来へ飛翔せんとする宝船は、文化を次世代に繋ぐ収蔵展示と観光振興の新発想の小宇宙でもある。新たな都市伝説の始まりに、建築もまた文化の1つであることを改めて気付かされる作品である。

(竹内徹・青木茂・尾崎勝)

新豊洲 Brilliia ランニングスタジア

新豊洲 Brilliia ランニングスタジアムは、パラリンピアを目指す障害者スポーツアスリートのための60層トラックと、競技用義足の開発・調整機能を併設した、屋内トレーニングセンターのプロジェクトである。本施設の立地場所は、江東区豊洲地区の埋立地の、護岸に整備された親水歩道の隣に位置しており、トップアスリートのみならず地域の人々も利用することのできるものとなっている。

建築としては、100mあまりの長さのウォールト形状の構造体が60層トラックの上に架かるというものである。主要構造部は鉄筋コンクリート造の片持ち柱が下部構造をなしており、その上部に鉄骨による軒桁にユニット化された集成材+鉄骨フレームと ETFE 膜のユニットを並べてゆき、全体のウォールト形状を作り出している。ETFE は二重構造形式となっていて、コンピュター制御で二重膜内に空気を送り込んでおり、気候変動に合わせて内圧を変化させることが可能になっている。ETFE という膜素材は、日本国内では十分に紹介されていない新素材ではある

すみだ北斎美術館

本施設は葛飾北斎が生まれ育った墨田区亀沢に北斎研究の拠点となる美術館を造り、北斎の浮世絵を世界に発信するというプロジェクトである。計画地は江戸東京博物館から東に300m、両国駅も近くアクセスしやすい立地で江戸情緒の感じられる街の公園の一角にある。2009年の公募型プロポーザルで選定され、設計では案の方向性を巡ってクライアントとの間で協議が繰り返され、着工まで5年を要した。

この建築の様々な特性はこの建築のポリュームの構成から生み出されている。小さなスケールの建築が密集する下町の町並みとスケールを合わせた4本のアルミニウム



が、この建物ではETFEの長所を活用することによって

2階レベルから4つのポリューム化するが、各ポリュームの痕跡